

## #10(2週目) 民数記におけるキリストに関する

主要な予表と予言 (民数記結晶の学び) 2019/5/6-5/12

### I. 私たちは、民数記におけるキリストに関する主要な予表

を見て、経験する必要があります：**A.** アロンの芽を出した杖が予表しているのは、死んだキリストではなく、復活したキリスト、芽を出すキリストです。彼は芽を出すだけではなく、花を咲かせ、実を結んで熟します：**民 17:8** その翌日、モーセは証しの天幕に入って行った。すると見よ、レビの家のアロンの杖が芽を出し、つぼみを付け、花を咲かせ、アーモンドの実を結んでいた。**1.** 民数記 16:3 の言葉と、9 と 10 のモーセの言葉が示しているのは、神の民の間のこの反逆の根が野心にあり、また権力とさらに高い地位のための闘争にあったということです。野心は神のご計画を台無しにして、彼の民に損害を与えます。何世紀にもわたって、クリスチャンの間にあった多くの問題は、野心によって引き起こされてきました。**2.** モーセは神の代理権威として、あるいは神の代行権威として、この事案を最高権威としての神にゆだねて、神の語りかけ、暴露、裁きを求めました。権力闘争において、裁くことができ、また真の状況を暴露することができる唯一の方は、神ご自身です。**16:5** そして、コラとそのすべての仲間に語って言った、「明日の朝、エホバはだれがご自分のものか、だれが聖なるものかを知らせ、その者をご自身に近づけられる。**3.** コラと他の者は、生きながらシェオール[陰府]へと直接下って行きました。彼らは、まず死ぬ必要はありませんでした。この事は、エホバがもたらした新しいことでした。**4.** 神がコラとダタンとアピラムと共に反逆した二百五十人を裁いたことが表徴するのは、人の意見にしたがって、肉によって、他の人との競争心の中で人が神に仕えることすべてに対して、十字架の裁きが臨むということです。**5.** 民数記 16 章におけるコラと彼の仲間の反逆が祭司職と関係があったので、アロンの杖が芽を出したことは立証であり、アロンが神に受け入れられて、神が与えた祭司職の務めにおいて権威を持っている者であることを示しました。**6.** あらゆる奉仕の原則は、芽を出した杖にあります。復活が、神に対する私たちの奉仕の永遠の原則です。私たちができる事は、天然の領域に属します。私たちができない事は、復活の領域に属します。**月**  
**B.** 赤い雌牛は、汚れを除く水の主要な構成要素であって、贖うキリストを表徴します：**民 19:2** 「エホバが命じて言われた律法のおきては次のとおりである。『イスラエルの子たちに告げて、欠陥がなく、傷がなく、くびきを負ったことがない赤い雌牛を、あなたの所に引いて来させなさい。19:9 そして、清い人がその雌牛の灰を集めて営所の外の清い所に置き、それをイスラエルの子たちの集団のため、汚れを除く水のために保存しておかなければならない。それは罪のためのささげ物である。**1.** 赤の色は罪の肉の様を表徴し、それは外側で人の罪を担うためです。**2.** 雌牛に欠陥がないことは、キリストが罪の肉の様にあって、罪深い性質がなかったことを表徴します。雌牛に傷がなかったことは、キリストが完全であったことを示します。**3.** 雌牛が決してくびきを負ったことがないことは、キリストがだれによっても、特に神の敵サタンによって、あるいは彼のために、決して用いられなかったことを表徴します。**4.** キリストは赤い雌牛のように、営所の外で、すなわちエルサレムの都の外の小さな山、カルバリで、十字架につけられました。**5.** 「祭司は香柏の木とヒソブと緋色の撚り糸を取って、雌牛の燃えている中に投げ入れなければならない」：**a.** 香柏の木は、キリストの威厳ある人性を表徴し、ヒソブは、キリストのへりくだった人性を表徴し、緋色は、贖いの最高の意義を表徴します。**6.** 高く威厳あるキリストと低くへりくだったキリストは、彼の贖

いにおいて、汚れを除く水を構成する要素でした。**6.** 民数記 19:9 は言います、「清い人がその雌牛の灰を集めて営所の外の清い所に置き、それをイスラエルの子たちの集団のため、汚れを除く水のために保存しておかなければならない。それは罪のためのささげ物である」：**a.** 灰は、減少して無になったキリストを表徴します。この灰は、汚れを除く水のために保存しておかれました。それは罪のきよめ、あるいは罪のためのささげ物でした。**b.** 民数記 19 章の汚れは、死を指しています。死は、イスラエルの子たちの間で優勢になりました。ですから、汚れを除く水が必要でした。**7.** 「この汚れた者のためには、罪のためのささげ物の焼いたものの灰を取り、それらに流れ水を加えて器の中に入れてなければならない」(19:17)：**a.** キリストの贖いの働きだけが、彼の威厳ある、またへりくだった人性を通して、彼の死と彼の復活の霊をもって、その状況をいやし清め、死の汚れを除くことができました。**b.** ここの生ける(流れ)水は、キリストの復活における聖霊を表徴します。汚れを除く水の中に、キリストの贖いの効能と、彼の復活の霊の洗う力があります。**火**  
**C.** 民数記 20:8 の岩は、十字架につけられ復活したキリストを予表し、岩から流れた水は、十字架につけられ復活したキリストから流れ出した生ける水としてのその霊を予表します。**民 20:8** 「杖を取り、集団を集め、あなたとあなたの兄弟アロンは、彼らの目の前で岩に語って、水を出させなさい。こうしてあなたは、彼らのために岩から水を出させ、集団と家畜に飲むものを与えなければならない」。I コリント 10:4 みな同じ霊の飲み物を飲みました。すなわち彼らは、彼らについて来た霊の岩から飲んだのです。そしてその岩はキリストです。**1.** キリストが十字架につけられ、その霊が与えられたので、キリストが再び十字架につけられる必要はありません。すなわち、再び岩を打って、生ける水が流れるようにする必要はありません。神のエコノミーの中で、キリストは一度だけ十字架につけられるべきです。**2.** 私たちは十字架につけられたキリストから生ける水を受けるために、「杖を取り」、そして「岩に語る」必要があるだけです。杖を取るとは、キリストの死において彼と一体化し、キリストの死を私たち自身と私たちの状況に適用することです。岩に語るとは、打たれた岩としてのキリストに直接の言葉を語り、その霊がすでに与えられたという事実に基づいて、命の霊を私たちに与えてくださるよう彼に求めることです。**3.** 民数記 20 章において、モーセは民が逆らっていると罪定めしましたが、モーセが神の言葉に逆らった者でした。**4.** モーセは、神を聖とすることに失敗し、神を俗なものとしてしまいました。モーセは民に対して怒って、間違っただけで岩を二度打ったことで、神を聖とすることに失敗しました。**5.** モーセは、神が怒っていないのに怒って、神の聖なる性質において神を正しく代行しませんでした。そして彼は岩を二度打って、神のエコノミーにおける神の言葉を守りませんでした。こうして、モーセは神の聖なる性質と彼の神聖なエコノミーの両方に違犯しました。**6.** このことのゆえに、モーセは神と親密であって、神の仲間と考えられていたにもかかわらず、良き地に入る権利を失ったのです。**7.** 私たちが神の民に関して言い、行なうすべてのことで、私たちの態度は神の聖なる性質にしたがっていなければならず、私たちの行動は彼の神聖なエコノミーにしたがっていなければなりません。そうでないと、私たちは自分の言葉と行為において彼に逆らい、彼に罪を得るでしょう。**水**  
**D.** 民数記 21:4 から 9 の青銅の蛇は、主イエスの予表です。彼は私たちの身代わり、また置き換えとして、罪の肉の様で十字架につけられ、私たちが彼を「見」て(中へと信じて)、永遠の命を得ることができるようになりました：

民 21:7 民はモーセの所に来て言った、「私たちは罪を犯しました。エホバとあなたに言い逆らったからです。エホバに祈って、私たちから蛇を取り去るようにしてください」。モーセは民のために祈った。8 エホバはモーセに言われた、「一つの火の蛇を作り、それを竿の上にかきなさい。かまれたすべての者は、それを見れば生きる」。ヨハネ 3:14 そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。15 それは、彼の中へと信じる者がすべて、永遠の命を持つためである」。1. イスラエルの子たちは、神に対して罪を犯した時、蛇にかまれました。神はモーセに、彼らに代わって神の裁きを受ける青銅の蛇を上げるよう告げました。それはすべての人がその青銅の蛇を仰ぎ見ることによって、生きるためでした。2. 主イエスは「罪の肉の様」で来ました。その様は、青銅の蛇の形に相当します。その青銅の蛇は、蛇の形をしていましたが、蛇の毒はありませんでした。3. キリストは「罪の肉の様」となりましたが、肉の罪には少しもあざかりませんでした。4. 彼が肉体の中で十字架に上げられた時、彼の死によって、サタン、古い蛇は対処されました。これはまた、墮落した人の内側にある蛇の性質が対処されたことを意味します。5. 私たちは日ごとに主を罪のためのささげ物の実際として享受して、私たちの存在に適用することができます。彼は罪を対処する命、すなわち、私たちの罪深い性質を対処する命です。6. 庇護の町は、贖う神の具体化としてのすべてを含むキリストを予表し、間違いを犯した罪人は彼の中へと逃げ込んで、庇護を得ることができます。民 35:6 あなたがたがレビ人に与える町々は、六つを庇護の町とし、殺人者がそこに逃れるようにしなければならない。そのほかに、四十二の町を与えなければならない。7 あなたがたがレビ人に与える町々は、全部で四十八の町とその放牧地でなければならない。1. キリストは神によって罪人の手に渡され、彼らは誤って彼を死に渡しました。2. どの罪人でも悔い改めるなら、神は彼を間違いを犯した罪人と見なして赦します。このような者はキリストの中へと逃げ込むことができますが、どの人でも福音を拒絶して、悔い改めないなら、神は彼を故意に罪を犯した罪人、滅びに定められた者と見なします。3. 六つの庇護の町が、ヨルダン川の両岸に三つずつありました。六の数は、間違いを犯した人を表徴します。それは、人が神によって六日目に創造されたからです。4. 三の数は、間違いを犯す人のための庇護としての三一の神を表徴します。二の数(二組のそれぞれ三つの町)は、宇宙に立っている証しを表徴し、三一の神が地上で人類の間に生きており、彼らの庇護の町であることを宇宙に証しし、宣言しています。5. レビ人に与えられた町は、四十八の町でした。四十八の町は、イスラエルの間に分散して、彼らの驚くべき、いつでも利用可能な祝福となりました。6. 庇護の町がイスラエルの子たちのためだけでなく、彼らの間の他国人や寄留者のためでもあったことは、間違いを犯す人のための庇護としての三一の神が、全人類のためであることを表徴します。7. さらに、六つの庇護の町が異なる場所に分布していることは、キリストが三一の神の具体化として、近くいつでも利用可能であるということを示しています。三一の神は人々の間に広がって、私たちがいる所に到達し、間違いを犯すすべての者の庇護の町となりました。命

II. 厳密に言って、民数記の予言である箇所は、24:14 から 25 の箇所だけです。聖書解説者はその箇所を「バラムの予言」と呼んでいます。この予言は、主の二度目の来臨の時に起こる事柄について語っており、それは 14 の「終わりの日」という句によって示されています。民 24:17-19 私は彼を見る、しかし今ではない。私は彼を見つめる、しかし

近日ではない。一つの星がヤコブから出て来て、王の杖がイスラエルから起こる。…彼の敵、…も所有される。そしてイスラエルは雄々しく振る舞う。ヤコブから出た方が主権を持ち、残った者たちを町から滅ぼす。A. ヤコブから出て来る星もイスラエルから起こる王の杖も、キリストを指しています。1. 主は彼の誕生の時に輝く星として出現し、彼の二度目の来臨の時にも輝く星として出現しますが、彼の二度の出現の間にあるこの時代において、彼はまた彼に属する人たちの心に明けの明星として昇ります。2. 王の杖はキリストの支配を指しています。王の杖を持つ方は、御座において、すべてを含む力と権威を持つ方です。B. 民数記のイスラエルの歴史は、召会の歴史を表徴します。キリストはこれらの歴史の終わりに、星また王の杖として現れ、すべての人々を照らして、全地を支配します。その時、神の民をひどく悩ます地上のあらゆるものは取り除かれて、神の民はもはや苦しむことはなくなります。命

Crucial Point①:野心、高ぶりを対処し、神に服し、神の代理権威に服して、召会の中で奉仕する

民 16:3 彼らは集まってモーセとアロンに逆らって言った、「あなたがたは分を越えています。全集団はことごとく聖なるものであって、エホバが彼らの間におられるのです。どうしてあなたがたは、エホバの会衆の上に自らを高く上げるのですか?」。OL1:神の民の間の反逆の根は、野心にあり、また権力とさらに高い地位のための闘争にありました。野心は神のご計画を台無しにして、彼の民に損害を与えます。何世紀にもわたって、クリスチャンの間にあった多くの問題は、野心によって引き起こされてきました。OL2:コラと他の者は、生きながらシェオール[陰府]へと直接下って行きました。彼らは、まず死ぬ必要はありませんでした。この事は、エホバがもたらした新しいことでした。OL3:神がコラとダタンとアピラムと共に反逆した二百五十人を裁いたことが表徴するのは、人の意見にしたがって、肉によって、他の人との競争心の中で人が神に仕えることすべてに対して、十字架の裁きが臨むということです。OL4:民数記 16 章におけるコラと彼の仲間の反逆が祭司職と関係があったので、アロンの杖が芽を出したことは立証であり、アロンが神に受け入れられて、神が与えた祭司職の務めにおいて権威を持っている者であることを示しました。あらゆる奉仕の原則は、芽を出した杖にあります。復活が、神に対する私たちの奉仕の永遠の原則です。私たちができる事は、天然の領域に属します。私たちができない事は、復活の領域に属します。

すべて自分自身を高く思う者や、自分自身について誤った判断を持っている者は、復活が何であるかを決して認識したことはありません。…もし人が、自分には能力があり、自分は何かできる、自分は役に立つと思いつけるなら、彼は復活を知りません。彼は復活の教理、復活の理由、復活の結果を知っているかもしれませんが、復活を知りません。すべて復活を知っている人は、自分自身の望みを捨てています。彼らは、自分ができることを知っています。天然の力が残っている限り、復活の力は現される立場がありません。サラが子供を産むことができる限り、イサクは来なかったでしょう。私たちができる事は、天然の領域に属します。私たちができない事は、復活の領域に属します。

適用:青年在職、大学院生編

I ペテロ 5:5 若者たちよ、年長者たちに服従しなさい。またあなたがたはみな、互いに謙その帯を締めなさい。なぜなら、神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。この聖書の箇所では神は高ぶる者に敵対すると言っています。神に敵対するのはサタンです。ですから高ぶっている者は、実際にはサタンと一体化して

いる者であると言うことができます。あなたはどんな言い訳があっても高ぶりから離れなければなりません。

**高ぶりを避ける道:** ①高ぶる者はサタンと一体となるので、神はその者に敵対することを認識し、内側の高ぶりを徹底的に対処する。高ぶることは、主との一つ霊を実行することを徹底的に妨げ、実行上あなたをサタンと一つにしてしまいます。サタンは天使長でしたが、高ぶりのゆえに神の敵サタンになってしまいました。ですからあなたの内側の高ぶりはサタンから来ています。あなたは高ぶりを徹底的に対処する必要があります。②あなたの成功や祝福はすべて神の恵みによることを認識して、神に感謝し、栄光を神に帰す: **I コリント 15:10** しかし、神の恵みによって、今の私があるのです。そして私に対する神の恵みは、無駄にはなりません。それどころか、私は彼らのだれよりも多く労苦してきました。しかし、それは私ではなく、私と共にある神の恵みです。パウロは神の恵みによって今の私があると言っています。これはあなたについても全く同じです。あなたがある事柄で成功したとしても、それは神のあわれみと恵みによるのです。したがって成功や祝福は自分のゆえであると決して考えるはいけません。もちろんあなたはその成功のために多く努力したかもしれませんが、神の恵みがなければ何も実を結ぶことはできなかったのです。例えば福音開展で私たちは4月の1週目10人バプテスマし、2週目11人バプテスマしましたが、3週目は2人しかバプテスマできませんでした。そのうち1人はある姉妹の親友ですので、路上で得たのは1人だけでした。同じように福音をしていますが、1人しかバプテスマできませんでした。このような4月の3週目の経験によって、自分たちは無力であり、主の祝福がなければ平安の子に会うこともできないことを再認識しました。福音を伝えていたおもだった人たちは、主の前にへりくだり、罪を告白し、最後の週の福音を行いました。最後の週とその次の月曜日に13人バプテスマすることができました(3月28日から39人)。私たちは自分たちが役に立たないしもべであるので、へりくだって主の恵みを仰ぎ求めました。その結果、大きな祝福を得ることができたのです。主に感謝し賛美します。栄光を主に帰します。私たちが39名バプテスマできたのは絶対的に主のあわれみと恵みによります。③自分の長所ばかりを見ずに他人の長所を見る: **ピリピ 2:4** おのおの自分自身の長所だけでなく、他の人たちの長所にも目をとめなさい。人には皆、長所と欠点があります。もしあなたが自分自身の長所ばかりを見ているなら高ぶってしまいます。そうではなく、あなたは他人の長所を見て評価することを訓練してください。そうすれば高ぶりから救われます。④あなたを導いている人に従う: **ヘブル 13:7** あなたがたを導き、あなたがたに神の言を語った人たちを覚えなさい。そして彼らの生活の仕方の成果を心にとめて、彼らの信仰に倣いなさい。⑤天然の能力は十字架を経過し、復活の中に入らなければ召会に神の祝福をもたらすことはできない: 神はあなたを創造されました。したがってあなたの天然の能力も神から来ています。あなたはこのことで神に感謝すべきです。しかしさらに重要なのは、あなたの天然の能力は死を経過しなければならないということです。神の創造は神の力によりますが、神の新創造は復活の中にあります。**民 17:8** その翌日、モーセは証しの天幕に入って行った。すると見よ、レビの家のアロンの杖が芽を出し、つぼみを付け、花を咲かせ、アーモンドの実を結んでいた。

あなたは天然の能力、あなたの意見を召会の奉仕の中にもたらしてはいけません。コラと反逆に追従した250人が直接、陰府(よみ)に下って行ったことは、天然の能力や意見は十字架に付けられなければならないことを示しています。

十字架がなければ復活はありません。召会は復活の中で生み出され、復活の中で建造されていきます。キリストは復活の中で命を与える霊となり、あなたの中に入り、あなたを新創造、キリストのからだの一部分とします。

あなたは復活の中で、自分の高ぶりを対処してください。霊を活用し、主の御名を呼び求め、御言葉を祈り読みし、兄弟姉妹と交わり、福音を友人たちに伝えてください。これら全ての事をキリストの内住の命によって行ってください。そのために、あなたは天然の命を十字架に付けることを経験しなければなりません。天然の命を生きる人は、復活の命を生きることはできません。**ガラテヤ 2:20** 私(古い私)はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私(復活の中を生きる新しい私)の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

祈りの真の意義は、もはや古い天然の私ではなく、キリストを内側に生かすことです。復活の命を生きるために、あなたは祈る必要があります。祈らなくても良いと思うのは、あなたが天然の命に頼って事を行っているからです。特に召会の奉仕に携わる時、あなたは多く祈って、復活の中で奉仕を行うようにしてください。しかしながら日常のビジネス・ライフや研究生活の中でも、自分に頼らず神に頼り、自分の天然の力に信頼せず、復活の命に信頼して生活することを学んでください。日常生活で復活を経験しない人は、召会の奉仕でも復活を経験することは困難です。祈り:「おお主イエスよ! 私の内側に高ぶりの罪が住んでいます。私は天然の命にしたがって生きる時、コラのように反逆の性質、高ぶりの性質が出てきます。天然の命は十字架に付けられなければなりません。そうして初めて復活の中でキリストが私の内側で生きられるのです。日常生活においても、召会の奉仕においても、私は祈って、自分に頼らず内住のキリストに頼ります。復活の中で召会を建造する奉仕をすることができますように。アーメン!」

**Crucial Point②:キリストの贖いを認識して、**

**パンさき集会に参加することは、日常生活を引き上げる**

**OL1:**赤い雌牛は、汚れを除く水の主要な構成要素であって、贖うキリストを表徴します: **民 19:2** 「エホバが命じて言われた律法のおきては次のとおりである。『イスラエルの子たちに告げて、欠陥がなく、傷がなく、くびきを負ったことがない赤い雌牛を、あなたの所に引いて来させなさい。9 そして、清い人がその雌牛の灰を集めて営所の外の清い所に置き、それをイスラエルの子たちの集団のため、汚れを除く水のために保存しておかなければならない。それは罪のためのさげ物である。**OL2:**赤の色は罪の肉の様を表徴し、それは外側で人の罪を担うためです。雌牛に欠陥がないことは、キリストが罪の肉の様にあって、罪深い性質がなかったことを表徴します。雌牛に傷がなかったことは、キリストが完全であったことを示します。雌牛が決してくびきを負ったことがないことは、キリストがだれによっても、特に神の敵サタンによって、あるいは彼のために、決して用いられなかったことを表徴します。**OL3:**キリストの贖いの働きだけが、…彼の死と彼の復活の霊をもって、その状況をいやし清め、死の汚れを除くことができました。ここの生ける(流れ)水は、キリストの復活における聖霊を表徴します。汚れを除く水の中に、キリストの贖いの効能と、彼の復活の霊の洗う力があります。

民数記の赤い雌牛は贖うキリストを表徴しています。贖いの意義を認識することは、主日のパンさき集会の意義と密接な関係があります。またパンさき集会は、私たちの日常生活を引き上げます。以下にパンさき集会について説明します。

## 生命課程 第16課 パンさき集会(1/4)

(今週からパンさき集会について4週間学びます)

- ①「私たちがパンをさくために集まった…」(使徒20:7)  
②「あなたがたが同じ場所に集まって…主の晩餐を食べる」(Iコリント11:20) ③「あなたがたは…主の食卓…にあずかる」(Iコリント10:21) この三箇所の聖書は、パンさき集会は信者たちが共に来て、主の晩餐を食べ、主の食卓に着くことを私たちに見せています。この集会は、二つの部分に分かれます。前半は主を記念すること、後半は父を礼拝することです。

### I. 主を記念する一主を中心とする:

- ①「それから、イエスはパンを取って…それをさいて彼らに与え、言われた、『これは、あなたがたのために与えられる私の体である。私の記念にこれを行ないなさい』。彼らが食事をした後、杯も同じようにして言われた…」(ルカ22:19-20)

パンさきの集会は、主を記念するためです。それは、主を記念することを中心とし、主に享受していただくことです。詩歌を歌い、祈り、聖書を読み、靈感の言葉を語ることで、すべて主を中心とすべきです。また主のパーソンと働き、主の愛と美德、主の地上での生活と苦難、主の天における誉れと栄光について語るべきであって、人にこれらのことを思い起こさせ、主ご自身を記念します。このような集会で、私たちは心で主を思い起こし、霊の中で主を仰ぎ見るべきです。それは、私たちの内側で主に対して靈感を持たせ、外側で詩歌を歌い、祈り、聖書を読み、言葉を語り出させます。こうして、集会全体の感覚は主に集中し、すべての人が主を記念するようになります。

1. 主の晩餐を食べる-①主を記念する: ①「主イエスは…パンを取り…それをさいて言われました、『これは、あなたがたのために与える私の体である。これを行ない、私の記念としなさい』」(Iコリント11:23-24)

私たちはパンをさくたびに、主が設立されたとおりに、一つのパンを置いて、すべての人がさいて食べるように準備します。次に一つの杯をパンのそばに置いて、受けて飲むように準備します。主のパンを食べ、主の杯を飲むことによって、私たちは主を記念する中で主の晩餐を食べます。パンと杯はいずれも象徴です。主が言われたように、パンは、彼が十字架上で私たちに与えられた体を表徴し、杯は、彼が十字架上で私たちのために流された血を表徴します。彼が私たちのために体を与えられたのは、彼の命を私たちに分け与えるためです。彼が私たちのために血を流されたのは、私たちの罪を贖って、罪の赦しを得させるためです。

私たちはさかれたパンを見、あるいはそれを受けるとき、主が私たちのためにどのように肉體と成り、どのように肉體の中で私たちのために死なれ、どのように私たちのために彼の体をさいて、私たちに分け与え、私たちに彼の命を得させたかを思い起こすべきです。聖書の中で、パンは命を指しています。主は、彼が命のパンであり、世人に命を与えるものであると言われました。パンについて語るとき、私たちは命を思い起こすべきです。主がご自身の体をさいて、パンのように私たちに分け与えられたのは、彼が私たちのために彼の体を与えて、私たちに彼の命を得させてくださったことを意味します。私たちは彼のさかれた体を受けて、彼の命にあずかるのです。これは毎回私たちがパンをさくことによって、また私たちが毎回さくパンによって象徴されるものです。

- ②「彼らがそれを食べた後、杯も同じようにして、言われました、『この杯は、私の血によって立てられた新しい契約である。それを飲むたびに、これを行ない私の記念としなさい』」(Iコリント11:25)

パンさき集会の中で、私たちがさかれたパンを見、あるいは受けるとき、私たちは主と主が私たちのためになしてくださったことを思い起こすだけでなく、私たちが飲む杯を見、また受ける時も、このようにしなければなりません。この杯は主が彼の血を流して私たちのために設立された新しい契約を表します。私たちはこの杯を見、あるいはこれを受けて飲むとき、主が私たちのためにどのように血と肉の体にあずかられ、どのように私たちのために体を与えて、私たちに彼の命を得させたかだけでなく、私たちのために血を流して、私たちにあの最高の祝福の分け前を得させてくださったか、すなわち罪から離れて、神と神の一切を得させてくださったかを思い起こすべきです。私たちはこの象徴しているものによって、主がどのように私たちのために罪を担い、私たちのために罪となり、私たちに代わって裁きと罰を受け、彼の血を流し、私たちの祝福の杯となり、永遠の祝福の分け前となってくれたかを思い起こすべきです。私たちはまた主の血がどのように私たちに贖いを得させ、罪の赦しを得させ、聖別を得させ、義とされることを得させ、神と和解させ、神に喜んで受け入れられるものとさせたかを、またそれがどのように私たちの罪を清め、良心を洗い、私たちに大胆に恐れなく、神に近づくことを得させたか、どのようにそれが神の御前でさらに美しい言葉を語られたか、どのように私たちのために悪霊の攻撃に抵抗し、悪魔の訴えに勝利を得させたかを思い起こすべきです。

パンは聖書では命を指しており、杯は「分け前」を示しています。「エホバは…私の杯の分け前です」(詩16:5)とあるとおりです。私たちはもともと罪を犯し、悪を行なって、神の御前で受くべき分け前は、「神の怒りの杯」、すなわち、火の池に下って、永遠の滅びの苦しみを受けることでした。ところが神は、主イエスに十字架上で、私たちに代わってその怒りの杯を飲ませられました。彼は、私たちのために神の義なる裁きを受け、火の池の滅びの苦しみを味わい尽くし、彼の血を流して、私たちの罪を贖い、私たちのために新しい契約を設立されました。このようにして怒りの杯の代わりに、「救いの杯」が私たちの「祝福の杯」となりました。この救いの祝福の杯にあって、神ご自身と彼が所有しておられるすべてが、私たちの永遠の祝福の分け前となりました。

### 適用: 青少年(小学校5年から中高生、大学生)、新人編

4月27日のバプテスマ集会で3人の小学校5年生の兄弟たちがバプテスマされました。ハレルヤ! 主を賛美します。バプテスマによって兄弟たちは、サタン王国から神の王国に移され、神の豊富を享受することができるようになりました。兄弟たちは主日のパンさきの集会でパンと杯にあずかり、主を記念することができるようになりました。これはバプテスマされた全ての新人も同じです。新しくバプテスマされた全ての兄弟姉妹は、パンさき集会の意義を認識し、参加して享受してください。またパンさきで奉仕をする兄弟たちは、敬虔な畏れと感謝をもって奉仕にあずかるために、服装にも注意してください。あなたが天皇陛下に招かれたとしたら、いい加減な服装で天皇陛下にお会いすることはできません。キリストは神であり、宇宙の創造主であり、私たちの贖い主ですので、当然服装についても注意を払うべきです。祈り:「おお主イエスよ! 私は信じてバプテスマされ、パンさきの集会に正式に招かれ、参加することができる権利を得ました。これはあなたの贖いのゆえです。赤い雌牛は贖うキリストであり、私の罪を赦し、神の命にあずからせ、神の王国の民、キリストのからだの肢體にしてくださいました。私は敬虔な感謝と畏れを持ってこの集会に毎週参加します。そして毎日、キリストを食べ、キリストを生きて、神の王国のために召会を建造します。アーメン! ハレルヤ!」